

委員会行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

1. 視察概要

委員会名	民生常任委員会
委員名	後藤錦信、佐藤講英、伊勢健一、中鉢和三郎、鎌内つぎ子、加藤善市、関武徳、山田和明
日時	平成30年8月21日(火)～平成30年8月23日(木)
視察先	1. 兵庫県明石市 2. 三重県松阪市 3. 大阪府豊中市
出席者 (説明者)	1. 明石市福祉局子育て支援室児童福祉課 田中課長、こども育成室利用担当課 鈴木課長 2. 松阪市健康福祉部障がい福祉課 伊藤課長、青木課長補佐 3. 豊中市健康福祉部地域福祉課 小林係長、久野主事

2. 視察内容

視察項目	1. 第2子以降の保育料無料化と子ども医療費助成制度について(兵庫県明石市) 2. 手話施策について(三重県松阪市) 3. 豊中ライフセーフティネットについて(大阪府豊中市)
視察内容	<p>1. 第2子以降の保育料無料化と子ども医療費助成制度について(兵庫県明石市)</p> <p>明石市は、兵庫県南部の瀬戸内海に面する、人口約 29 万 7,000 人の都市で、気候は温暖、古くは万葉歌人柿本人麻呂によって多くの歌が詠まれ、紫式部の源氏物語の舞台にもなった風光明媚な地です。さらに、阪神都市圏と播磨臨海地域、そして海を隔てて淡路・四国と結ぶ位置にあり、海陸交通の上で重要な拠点となっています。</p> <p>また、明治 19 年に勅令によって日本標準時が定められて以来、「子午線のまち」として全国的にも有名となり、昭和 35 年に東経 135 度子午線上に建てられた天文科学館は市のシンボルとして愛されています。</p> <p>面積は 49.42 平方キロメートルで、市域の最長距離は東西 15.6 キロメートル、南北 9.4 キロメートルで、東西に細長い町を形成しています。</p> <p>市の歩みとしては、平成 14 年に特例市、平成 30 年 4 月からは中核市となり、みずからの権限と責任のもと、市民サービスのさらなる向上と地域特性を生かした個性豊かなまちづくりに向け、諸施策に取り組んでいます。</p> <p>明石市では、「明石市まち・人・しごと総合戦略」の人口ビジョンにおいて、平成 31 年度までに人口 30 万人、1 年間の出生者数を 3,000 人とする目標を掲げ、その実現に向けてさまざまな取り組みを進めています。</p> <p>人口増には、転入による社会増に加えて、出生数増への取り組みが必要となってきます。そのため、「子どもを安心して産み・育てられるまち」として、子育て世帯の経済</p>

的な負担を軽減し、2人目を出産する後押しとなるよう、保育所や幼稚園等の施設を利用する第2子以降の保育料を無料としています。

この制度は、第1子の児童の年齢や保護者の所得にかかわらず、第2子以降が保育所や幼稚園などの施設を利用する場合の保育料(延長保育料や給食費、教材費、被服代、文房具代等は除きます)を無料としており、明石市内に居住している第2子以降の児童のほか、DVなどの理由で住民票を移さずに市内に居住している場合も対象としています。

対象施設は、子ども・子育て支援新制度における特定教育・保育施設(保育所、幼稚園、認定こども園)及び特定地域型保育事業所(家庭的保育、小規模保育、事業所内保育、居宅訪問型保育)であり、平成28年9月以降の保育料から適用して、現在も継続実施中です。

なお、当施策の実施により、保育ニーズが当初の予想を超えて急増したことから待機児童が増加したため、早速その解消策として、現在、大規模保育所の整備や幼稚園の預かり保育の拡大等、新たに2,000人規模の大幅な受け入れ枠の拡充に取り組んでおり、人口増による好循環を維持しつつ、待機児童の解消に努めているとのことであります。

次に、こども医療費助成制度については、明石市は県の制度を超えて先行的に充実を図っており、平成22年に入院費無料を中学生までに拡大後、平成25年7月からは、外来も中学生まで無料とするとともに、所得制限も撤廃しています。助成対象は、中学校修了前の子どもを養育している者で健康保険に加入している者に対し、その養育している子どもの保険診療に係る医療費を助成しています。

この制度拡充から4年が経過し、受給対象の児童がいる世帯からは、中学生までの子どもが、必要な医療を必要とときに、医療費を気にすることなく受けられるので安心して子育てができるといった声を多くいただくとともに、子育て世帯を中心とした転入が増加するなど、目に見える形で成果を感じ取っているとのことでした。

また、当施策の実施前に懸念されていた夜間及び休日診療に大きな増加は見られないことから、適切な医療を受ける機会がふえたことにより、重症化の予防につながっているのではないかと考えているとのことでした。

以上のように、第2子以降の保育料や中学校卒業までの医療費、どちらも所得制限をなくすに至った考え方としては、当施策は子育て世帯への負担軽減や支援施策の充実を図る一環として行うものであり、低所得世帯に対する貧困施策として実施するものではないことや、児童自身には所得はなく、保護者の所得で線引きするのは妥当ではないという考え方が根底にあるとのことでした。

2. 手話施策について(三重県松阪市)

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置する人口約16万5,000人の都市で、東は伊勢

湾, 西は台高山脈と高見山地を境に奈良県に接し, 南は多気郡, 北は雲出川を隔てて津市に接しています。気候は全般的に温暖ですが, 降水量は平野部で 1,500 ミリメートル程度なのに対し, 山間部では 2,000~2,500 ミリメートルとかなり多くなっています。

和歌山街道と伊勢街道が合流する交通の要地であったことから, 江戸時代から宿場町, 商人の町として栄え, 本居宣長らの文化人を輩出しています。また, 言わずと知れた松阪牛の生産地でもあります。

面積は 623.58 平方キロメートルで, 東西に 50 キロメートル, 南北に 37 キロメートルと東西に細長い町を形成しており, 三重県全体の 10.8%を占めています。

平成 17 年1月1日に, 旧松阪市を含めた1市4町が合併し, 新しく生まれた松阪市は, 本市の類似都市ではないものの, 市の面積, 人口規模, 地勢, 産業構造等類似点の多い団体であり, 南三重の中心都市としての役割を担っている都市であります。

松阪市では, 手話は言語であり, ろう者が必要な言語として大切に育んできたこと, そして手話を使用する環境が整えられてこなかったことから多くの不便や不安を感じながら生活してきたこと, こうした中で, 条約や法律において手話が言語として位置づけられたものの, 手話に対する理解を感じる状況には至っていないこと, このような状況を踏まえて全国的にもいち早く条例制定に着手し, 平成 26 年4月1日, 「松阪市手と手でハートをつなぐ手話条例」が施行されました。手話言語条例は現在 200 を超える自治体で制定されていますが, 松阪市は全国で4番目に当条例を制定し, さまざまな手話施策に積極的に取り組んでいます。

条例制定後の具体的な取り組みについてですが, 障がい担当課に手話推進マネージャーと手話普及担当者を配置しています。特に, 手話普及担当者は松阪市初の障がい者枠採用のろう者であり, 手話を言語とする当事者の配置は, 手話条例を推進していく体制強化につながっていると言えます。

広報・啓発のための取り組みとしては, まず市職員向けの取り組みとして, 職場・職員研修を数多く実施しています。平成 26 年度は 15 回の実施で参加職員は 361 人, 27 年度は6回の実施で 209 人, 28 年度は3回の実施で 176 人であり, 市職員の意識醸成に努めていました。

次に, 市民向けの取り組みとしては, 条例施行の周知事業, 市民向け研修・啓発イベントの開催, 市民向け出前講座の実施, 手話条例シンボルマークの募集, 手話普及啓発ポスターの募集, 手話普及啓発イベント「まちかどミニ手話教室」の開催, 手話講座「手話で話そう」研修事業など, さまざまな啓発イベントを実施していました。

次に, 企業向けの取り組みとしては, 松阪市企業等手話研修会事業助成金制度や松阪市企業等手話研修推進事業を実施していました。前者は, 企業が手話研修会を開催した際に, その講師(松阪市ろうあ福祉協会及び手話通訳者)謝礼分として最大2万円を企業に助成する制度で, 平成 27 年度事業として実施し, 後者は, 企業が実施する手話研修会や講演会へ講師を派遣する制度で, 講師は松阪市ろうあ福祉協会に業

務委託して平成 28 年度から実施している事業です。

また、今後の施策の具体的展開を図るため、松阪市手話施策推進会議を設置して、施策の推進方針の策定を行っています。この推進会議は、11 名（手話による意思疎通を行う方（当事者）3 名、学識経験者 1 名、手話による意思疎通を支援する方（公募）3 名、行政職員（福祉部、産業経済部、環境生活部、教育委員会）4 名）構成で、手話に対する理解及び手話の普及を図るための施策の基本的な進め方を議論し、2 年に一度見直しを行っています。現在は第 3 期手話施策推進方針を策定中とのことでした。

3. 豊中ライフセーフティネットについて（大阪府豊中市）

豊中市は大阪府中央部の北側、神崎川を隔てて大阪市の北に隣接している人口約 40 万人の市で、都心通勤者の郊外住宅地として大阪都市圏の中でも早くから開発が進み、発展してきた都市です。平成 24 年 4 月には中核市となりました。市の面積は 36.6 平方キロメートルで、地形は北東の千里山丘陵部、中央の豊中台地、南西の低地部とから成っており、気候は四季を通じて温暖で、雨量も少ない瀬戸内式気候です。

また、当市は全国高等学校野球選手権大会（夏の全国高校野球大会）の発祥の地でもあり、昨夏に第 100 回の節目を迎えた同大会の記念すべき第 1 回大会は、大正 4 年に豊中グラウンドで開催されています。

大阪市のベッドタウンとして発展してきた豊中市ですが、そのような中においても少子高齢化は急速に進んでおり、核家族化の進行とも相まって、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加しています。さらに、価値観の多様化や地域連帯の希薄化にも歯どめがかからず、孤独死、虐待、子育ての孤立化など、新たな地域福祉の課題が表面化しています。豊中市では、これらの課題解決に向けて、地域住民や地域自治組織、民間事業者、社会福祉協議会、行政等の公的機関と地域が相互に協力しながら、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせるよう、さまざまな福祉的な課題の解決に取り組むことを柱に据えていました。

誰もが互いに尊重し合い、安心して健康に暮らすことのできる福祉コミュニティの実現を基本理念に据えている豊中市では、施策の展開として、支援を必要とする人を支えるネットワークの構築、制度のはざまや複合的な課題への対応、孤立防止対策の推進、生活困窮者への支援、軽易な生活課題への対応、保健・医療・介護・福祉などの連携による包括的な地域ケア体制の構築をしていました。

豊中市ライフセーフティネットの構造は 3 層構造となっており、まずは福祉なんでも相談窓口があります。この窓口は小学校区ごとに設置されており、そこが地域住民の身近な相談窓口となっています。ここは校区福祉委員、民生児童委員など地域ボランティアにより運営されていますが、相談件数は年々増加し、平成 27 年度は 36 校区合わせて 537 件に上っています。

この相談窓口を支援しているのが地域福祉ネットワーク会議です。この会議は分野

	<p>を超えた専門職などによる連携会議で、高齢・子ども・障害の3部会を置き、7つに分けられた介護保険生活圏域ごとに年2回開催され、地域課題を共有しています。構成は市関係部局、社会福祉協議会、保育所、消防、保健所、子ども家庭センター、豊中警察署、地域包括センター、介護保険事業者、民生児童委員、校区福祉委員などです。</p> <p>そしてさらに、この地域福祉ネットワーク会議を支援しているのがライフセーフティネット総合調整会議で、子ども家庭センター、保健所、行政機関の代表などで構成しています。</p> <p>この3層構造の立役者となって問題解決に中心的な役割を果たしているのがCSW（コミュニティソーシャルワーカー）であり、直接住民の相談業務に当たるとともに、福祉なんでも相談窓口のバックアップ、地域福祉ネットワーク会議の主催、ライフセーフティネット総合調整会議への情報提供などを行っています。</p> <p>豊中市では、このようにさまざまな立場にある者を広く活用し、多種多様で複雑化する地域福祉の課題解決に努めるとともに、市民力、地域力の効果的な強化を図っています。</p>
<p>考 察</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 明石市では、これら無料化施策も含めた子育て施策全般の充実が、子育て世帯の増加だけではなく、税収増や地域経済の活性化にもつながるなど好循環を生み出しており、本市においても今後の取り組みに大いに参考となるものであります。 2. 大崎市議会においては、平成30年2月28日の本会議において、平成30年請願第1号「大崎市障がい者のコミュニケーション手段の利用を促進する条例の制定を求める請願書」を採択したところであり、そうした中でいわゆる手話言語条例の先進地である松阪市において当該テーマで行政視察を実施できたことは、大変時宜を得たものと考えます。今後の本市における「(仮称)大崎市障がい者のコミュニケーション手段の利用を促進する条例」の制定及び施行に向けて、議会として執行部に的確な政策提言を行う上でも、今回得た知見は貴重なものであり、有効に生かすべく、さらに議論を深めていきたいと考えます。 3. 豊中市が目指す地域包括ケアシステム・豊中モデルとは、「誰もが住み慣れた自宅や地域で自分らしく暮らせること」の実現であり、「そのことで将来への安心と希望をつくり出し、私たち一人ひとり・地域・まち・社会のすべてが、明日への活力とともに未来を創造し続けること」です。その目指すべき将来像に向かい、市民、事業者、各種団体、行政のおのおのが地域包括ケアシステムの目的や課題を共通認識として持ち、自助、互助・共助、公助の役割、強みを生かし、主体的に行動することで、地域全体の底上げが図られます。そのような地域共生社会を目指して頑張っている豊中市の取り組みは大変参考になるものでした。

以 上